

平成30年度 学校だより (第20号)

**木立見** こだちみ

校訓 ～ 強く 正しく 美しく ～



平成31年3月22日発行

発行者 出口 伸雄

足利市立西中学校 62-2230

平成30年度学校課題：自他を尊重し、互いに高め合う生徒の育成（3年目）

本日、平成30年度修業式を行い、1年生：109名、2年生：123名が進級することになりました。在校生は、卒業生が築いてくれた良き伝統を引き継ぎ、下級生に優しく頼りになる学年にそれぞれ成長してほしいと願っています。保護者の皆様には、1年間、大変お世話になりました。今後も、お子さんが安心して、楽しく過ごせるような学校を目指して、全職員で誠心誠意、取り組んでいきたいと思ひます。



## 逞しく成長した卒業生～第60回卒業式～

3月9日(土)、足利市教育委員会教育長「若井祐平 様」、足利市総合政策部長「平澤敏明 様」をはじめ、たくさんのご来賓並びに保護者の皆様のご臨席のもと、第60回卒業式を行うことができました。PTA会長「秋山成之 様」からは、『挫折は過程、成功するまであきらめない、という本田圭佑選手の言葉を思い出し、壁を乗り越えてください。』と祝辞をいただきました。3年生の逞しく成長した姿が印象的な卒業式でした。

## 「**勇氣と挑戦**」で夢の実現を！(横式辞)

ノーベル医学・生理学賞を受賞した「本庶佑教授」は、好奇心を大切に、勇氣をもって、困難な問題に挑戦し、必ずできるという確信をもち、全精力を集中させ、あきらめずに継続する、を信条とし、長年に渡り研究を続けてきたとのこと。卒業生のみなさん。この本庶さんが信条としている「勇氣と挑戦」の心で、様々な困難を乗り越え、夢を実現してください。そして、この三年間で培った友情と西中魂「強く 正しく 美しく」を心に刻み、西中卒業生としてのプライドを忘れず、かけがえのない命を精一杯輝かせて、人生を歩んでいってください。新しい世界に旅立つ皆さんの限りない活躍を祈っています。(抜粋)



## 自信と誇りで人生を歩んでください！ 送辞「在校生代表」



先輩方がとびっきりの笑顔で私達の心を明るく照らして下さった時の前向きな気持ちを忘れず、生徒がより輝けるような学校を目指してがんばります。今日、先輩方は西中学校を卒業され、一人一人がそれぞれの道を歩んでいかれます。これからの道の先には様々な困難や苦勞があるかもしれません。そんな時は、中学校生活での努力と活躍を思い出して、自信と誇りをもって人生を歩んでください(抜粋)

## 互いに高め合っていける友達でいよう！ 答辞「卒業生代表」

卒業生の皆。皆と共に歩んできた三年間は本当にあつという間でした。みんなと過ごした何気ない日々も、今となってはかけがえのない時間です。今日が最後だと思つるととても寂しい。まだ皆と一緒に居たい。一緒に笑っていたい。そんな気持ちがあふれてきます。進む道はそれぞれ違つても、私達は西中の同級生、苦樂を共にした仲間です。これからも、互いに高め合っていける友達でいよう。今まで本当にありがとう。支えて下さった全ての方々との絆を胸に、「平成最後の卒業生」として巣立っていきます。(抜粋)



## 第2回学校評議員会～貴重なご意見をいただきました！

2月20日（木）、第2回学校評議委員会を行いました。今年度の学校経営をふりかえると共に、学校評価結果とその分析、次年度の年間予定などを説明しました。その後、学校評議員さん方から、学校評価結果、家庭生活、うち読の推進、部活動と地域の活動の兼ね合い、部活動の在り方などについて、感想やご意見をいただきました。次年度の学校経営に生かしたいと思えます。1年間、大変ありがとうございました。



## 思春期講座（2年）



3月14日（木）、足利市役所健康増進課から保健師「清水さん」、「齋藤さん」を講師としてお招きし、思春期講座を行いました。保健師さんからは、思春期の心と体について、社会性をもった性意識・性行動を取れるようにすること、命の大切さについてお話をいただきました。生徒からは、「相手のことを考えて行動する」「他人を思いやる」「自分だけでなくみんなが不安に思っていることが分かり安心した」などの感想がありました。

## 国際理解出前授業（1年）

3月14日（木）、足利市国際交流協会から2名の講師をお招きし、国際交流事業や姉妹・友好都市交流等についてお話をいただきました。以下、生徒の感想です。「外国人と交流するときは、その国の文化や歴史を深く理解することが大切だとわかりました。約300万人の外国人が生活する日本では、これからの人生で、外国人と交流する機会が増えると思うので、今日学んだことを生かしていきたいです。」



### 「私の成長」 宇都宮市立中学校保護者の手記 栃木県特別支援教育手をつなぐ親の会「てつなぎ」から

我が子が広汎性発達障害であると知ったのは、四歳を迎える少し前のことでした。子育てが上手くいかず、私自身落ち込み、気力もなくしていた頃、健診で声をかけてくれた保健師さんのすすめで発達検査を受けたときです。リハビリセンターで医師からは「発達障害の疑い」があると告げられました。



初めて耳にする言葉に、私は動揺し、「治りますか？」と。「ん～。これは個性ですからね。見守っていきましょう。」と医師。今思えば、愚問の一言に尽きるのですが…。その時のことは、はっきりと覚えています。頭が真っ白になったことも、我が子に何が起きているのか？と不安になったことも。自分のせいではないのかと責めていたことも。促されるがままに、発達訓練に通うなか、教室から出たがらない我が子に、「わがままはダメ」と言った私に、先生が、「これは、わがままではなく、何故楽しいのに帰らなければいけないのか、納得できていないんですよ」と。その一言に、自らの視野の狭さを痛感した瞬間でした。

小学校の特別支援学級を見学した際、「身支度がきちんとできない子供を何歳まで、『かわいいね』と周囲の人が許してくれるのでしょうか。私は身辺自立を大切に考えます。」と話してくれた先生の一言は、そのまま私の目標になりました。小学校で、放課後クラブに入部してからは、「色々なことができるようになって、素晴らしいですね。」と、褒めていただけられるようになりました。今、中学校では、自分で考え、先生方と相談をしながら様々な行事に取り組んでいるようです。

我が子は、たくさんの人に教えられ、助けられ、支えられ、確実に成長しています。私は？母として成長しているのでしょうか？少なくとも、今の私は、いつも笑っています。

### <春休みは進級への準備期間>

- ◆家族で将来の夢や進路について話し合ってください。
- ◆スマートフォンの使用には、約束を守らせ、規則正しい生活をさせてください。
- ◆交通事故にあわないように注意喚起をお願いします。
- ◆中学生のアルバイトは、法律で禁止されています。お手伝いをさせてください。
- ◆病院に行き、治療を行うようにしてください。

